第28回　　西宮市子ども・子育て会議

会　　議　　録

■日　時：令和元年８月22日（木）

■場　所：西宮市役所　本庁舎８階　813会議室

会議次第

議事
（１）会長・副会長の選任及び部会・ワーキンググループの設置について
（２）教育・保育の量の見込み及び確保方策について
（３）地域子ども・子育て支援事業の量の見込み及び確保方策について

会議概要

議事（１）会長・副会長の選任及び部会・ワーキンググループの設置について

・委員の互選により、倉石委員が会長に、橋本委員及び前田委員が副会長に就任することとなった。
・確認部会の委員は、木田委員、佐藤委員、多田委員、田村委員、藤原委員、前田委員が務めることとなった。
・評価検討ワーキンググループの委員は、岩本委員、貴山委員、久城委員、久保委員、谷川委員、田村委員、橋本委員、林委員、東野委員、藤原委員、松村委員が務めることとなった

議事（２）教育・保育の量の見込み及び確保方策について

○委員　幼児教育・保育の無償化に関して、満３歳児で幼稚園に通うと無償化になるが、保育所の利用者のうち住民税の課税世帯は無償化の対象とならないという理解でよいか。
○委員　関連して、３歳の誕生日で３号から２号に切り替わるが、認定区分ではなく、学年で条件が異なるという理解でよいか。
●事務局　おっしゃるとおり。認定こども園では、同じ２歳児クラスの中で、保育の必要性がある、いわゆる保育所的な利用をされている方は保育料がかかり、幼稚園的な利用をされている方は無償となる。
○委員　よくご存じの保護者で、誕生日が来たら１号になったほうが得ですよねと質問されるケースもある。
○会長　現場の先生方もその点は理解されていると思うが、残り２か月を切っているため、保護者の方への説明や対応が急務となる。
●事務局　市民の皆様への周知については、市政ニュースの８月10日号ではどなたが対象になるのかということ、また、８月25日号ではどのような手続が必要になるのかをお知らせする。
○委員　市政ニュースだけでは、周知漏れが出るため、対象の方には園を通して書類を送付するなど別の対応を検討しているか。
●事務局　保育所、新制度の幼稚園、認定こども園の利用者については、10月以降の保育

料が０円という決定通知を８月下旬に通知する予定。また、従来制度の私立幼稚園については、園を通じて保護者の皆様に説明会等をしていただくなど丁寧な対応をしていただいていると伺っている。
○委員　教育・保育の量の見込みについて、普段からさんざん担当課にお願いしていることだが、将来の適正配置に対する考え方が示されていない。受け皿を確保していくことはもちろん利用者にとって大事なことだが、将来の適正配置に対する考え方が示してもらう必要がある。また、運営する事業者は、応募してくれるところであれば、どこでもいいということではなく、質の担保と向上をしっかり置いた上で選定していくことが大事ではないかと思う。
○会長　量の見込みがこれだけ増える予測になっているということは、新しい施設を整備していくことになるのか。
●事務局　施設を整備することと既存の施設をどのように活用していくのかということの両方から考えていかなければならないが、一定数は施設整備をする必要がある。
○会長　質の面はもちろん最優先だが、ハード面の整備をされる場合、今後利用者の減少を見越してどのように整備していくか、そうした適正配置の観点は視野に入れなければならない。
○委員　保育需要の呼び込みは心理的な要因が大きいのだろうと感じている。保育園が増えれば、入れると思ってさらに需要を呼び込むという現象がどの市でも実際に起こっていて、逆に保育需要を増やすことによって子育て世帯を呼び込もうとしている近隣市もあると聞いている。西宮市としては、量の見込みに対して、これまでどおり整備する方向で確保方策を出されたいのかなと感じた。保育所、認定こども園の人数が増えれば保育需要はさらに増えていく可能性が強まり、逆に地域型保育事業や小規模保育を増やしても、そこに入れるからどんどん就労しようとは心理的には働かない、今後、市としてどちらを増やす方向で考えていくべきか、子ども・子育て会議でも議論する必要がある。
○会長　地域型保育事業については確保方策では数字を変えないで、保育所、こども園で数を増やして対応していこうというのが今のところの市のビジョンと理解してよいか。
●事務局　地域型保育事業については、中核市の中でも西宮市は先頭を切って整備してきた結果、３歳児の子供が保育所等に入所できない状況となっている。３歳児以降の受入れが確保できれば、地域型保育事業の整備も検討できるが、現在、その矛盾を抱えたままで地域型保育事業を増やしていく方向に向かうのはなかなか難しい。
○会長　増やすとなると相当の施設数が必要になる。地域性や３歳以降の受入先確保の難しさなどを把握して地域での適正配置を考えていかないといけない。
○委員　地域型保育事業を先頭切って増やしてきた経緯があるから、３歳から実際に保育園に入れないという現状はありつつも、その方々が幼稚園のほうに流れる可能性も出てくるのではないか。幼稚園での預かり保育などを積極的に増やす方策も立てながら地域型保育事業を増やす方策もとり得るのではないか。将来的に子供の総数が減っていく中で認定こども園や保育所を増やしていくことが現実的ではないか。
●事務局　おっしゃるとおり、幼稚園で保育需要を受けていただけるとすごくありがたいことで、市としてもその可能性を探っていきたいと考えている。

○委員　その点について、幼稚園では今できるだけ３歳の受入れを考えたいという方向で動いている。
○委員　実際のところ一番必要なものは箱よりマンパワーだと思うが、そこの対策がこの数字だけでは見えないので、そのあたりの考えを聞かせて欲しい。
●事務局　市としても保育士の確保には力を入れていかなければならないと考えており、奨学金の返済補助事業や法人が借りた宿舎の費用の補助、あるいは就職フェアも積極的に開催している。今後もこれまで以上に精力的に取り組んでいきたい。
○委員　保育士確保に関する神戸市の補助はかなり高くて、そのことを学生が知ってしまうと、例えば東灘と西宮では通勤距離も変わらないので、どっちを選ぶとなったときに神戸市を選択されるのが現状である。近隣市の取組み状況を把握しながら進めていかなければ人材確保は難しい。そのあたりも考慮した上で施設をどこまで増やせるのかを考えてもらいたい。
○会長　背に腹はかえられない。他市は釣り広告を出して頑張っておられるので、人材確保の点では市に考えていただくことを要望する。
　算出方法等については事務局案とし、確保方策については次回確定か。
●事務局　これで問題がなければ次に素案としてお示しする。
○会長　確保方策について、市の原案を承認させていただき、次回の会議で確定することとする。

議事（３）地域子ども・子育て支援事業の量の見込み及び確保方策について

○会長　子育て家庭ショートステイ事業で、今後の対応としてファミリーホームを入れる方向で考えておられると思うが、ここに里親を入れることはできないのか。
●事務局　里親が使えたら非常に助かる面はあり、児童相談所と協力・連携して考えていきたい。
○委員　子育てひろばについて、土日の開所は人材確保がネックになっているが、何か考えはあるか。
●事務局　子育てひろばの事業者へ協力依頼するほか、児童館も土曜日開所しているため、実態を確認し広げていきたい。
○委員　児童館は平日の午前中は使えるけれども、午後あるいは土曜日は小学生が来るのでちょっと危なくて行けないという方がいる。きょうだいで利用するには児童館はすごくいいと思うが、０～２歳で児童館を利用する声は余り聞かれないので、環境面を改善していく、あるいは周知の仕方を考えなければいけない。
○会長　確認だが、児童館としては月曜から土曜の10時から18時まで空いているが、子育てひろばとしては月曜から金曜までしか実施していない。それを土曜日も実施できるよう検討してくということか。
●事務局　そうである。実態を確認した上で検討の余地はあると考えている。例えば午後から小学生が来るなら午前中から午後１時ぐらいまで子育てひろばとしての活用ができな

いか、まずはそのあたりから考えていきたい。
○会長　考えようによっては縦の交流もできる。お兄さんお姉さんとして乳幼児にどのようにかかわれるか、交流できるかということは、指導員や職員の力量なり、プログラムの運用なり、保護者の協力をいただくなりして、児童館ではそのような交流ができるメリットを生かしていくことがあってもいいのではないか。
○委員　今日子育てひろばで、夏休み中の小学生の行き場がないという声があった。以前だったら当たり前のように地域で子育てをしていたが、今はそれもない。それが子育てひろばに来たら、黙っていても色々なお母さんが他の子供を見てくれるし、今日は６年生のお兄ちゃんが一緒に来て、その子は別の場所で宿題をしており、こういうことをさせてもらえるのはすごくありがたいという声があった。そんな中で小さい子との関わりも学んでいる。今の時代だからこそ、そのあたりを考えていく必要がある。
○会長　上の子供の自尊感情を育てることも大事だと思うので、児童館ですることのメリットを生かしていただきたい。
○委員　子育て地域サロンなど社会福祉協議会が実施する事業で障害のある方もお年寄りの方も小さい子供もみんなが集まれる場がある。転勤で初めて西宮市に来られたお母さんが、地域でぱっと顔を合わせて「こんにちは」と言える関係がどんどん増えていくのはすごくうれしいとおっしゃっていた。子育てサークルにおいても、集まった保護者同士が仲良くなれば一緒に公園にも行けるようになるし、お互いの家に行き来して、子育てひろばに行かなくても、その時間を楽しんで子育ても楽しめるようになると思います。もちろん市の施設の充実をしていただくことも大事で、いまだに子育てひろばのない甲子園口や夙川には早く整備する必要がありますが、子育てひろばの利用実績に表れないソフト事業の中で仲間づくりに対してもっと力を入れて欲しいし、子育てサークルへの助成もあれば、大きなお金を使わなくてもできることが出てくるのではないかと思う。
○会長　国の実施要綱で定める４つの基本事業にサークル支援は含まれていないか。
●事務局　含まれていない。
○会長　補助金の加算対象にもなっていないのか。
●事務局　加算対象でない。
○委員　ファミリー・サポート・センター事業（以下、「ファミサポ」）の登録会について、もっとＰＲして、このように登録会をやっていますということを伝えて欲しい。
　小さい子供がいるお母さんは、誰かに子育てを手伝ってもらうことは、よくないことだと思って自分で抱え込んでつらい子育てをしている人がたくさんいると思う。今は特に地域で子育てを助け合うこともなくなってきているので、ファミサポはこれからとても大事になっていくのに量の見込みは増えないようで、全然気持ちのこもっていない事業になっていると感じる。お母さんたちが、誰かに子育てを手伝ってもらってもいいんだと思えるようにする１つがファミサポだとすれば、この数をこのまま出すことには全然納得できないので、何か考えはないか。
●事務局　提供会員の数が増えない限り実際の預かりができないという問題がある。また、資格のない方が預かるため、安全面を一番に考えて行っている。たとえば、あらかじめ面談を行い子供の状態や様子を見て、提供会員とのマッチングを行っている。こうしたこと

も含めてご理解をいただけるように周知をしていかなければならない。
○会長　利用したい会員数の伸び、あるいはニーズについての感触はどうか。
●事務局　近年ニーズは伸びている。ただし、保育というよりは、送り迎え、お稽古ごとの行き帰りの預かりが多いのではないかと思う。
○委員　甲子園にお住まい方で、引越ししてきたばかりで周りに助けてくれる人がいないので、ファミサポの登録会に行きたいけれども、子育て総合センターまで行かないといけないのはすごく大変なんだ、かなりの覚悟を持ってやっと行こうと思うようになったけれども、コンビニで書類がとれるぐらいの感覚であればいいのにとおっしゃっていた。また、子育てコンシェルジュの存在もご存じではなかった。別の方は、私のような１人目の子供で、比較的動けるような者が頼んではいけないと思っていたとおっしゃっていた。私なんかが行ってはいけないと思われている方や、どこに聞けばいいか分からくて困っている方に、しっかりと周知でき、また、もう少し気軽にＳＯＳが出せるような利用ができればよいと思う。
○委員　ファミサポについては、2010年に預けたその日に赤ちゃんが亡くなるという死亡事故が起こり、裁判で結局、提供会員が4,500万円の賠償金を払って以来、全国のファミサポは非常に慎重になっている。保護者が気づいていない内部障害を持っている子供や保護者自身が精神的にバランスを崩している、追い詰められている場合があるため、登録会が困り事を抱えているお母さんの発見の場にもなっている。登録会で事前に親子一緒に面接をして、支援が必要かどうかを見極める必要がある。提供会員も、障害がある子供を預かれる人もいれば、小さい子は難しくて幼稚園や小学校の送り迎えならオーケーという人もいるので、マッチングがすごく難しい。お母さん方が誰かの助けを求めたいときに助けられるような手立てを講じることは必要だが、資格のない方ができる範囲とできない範囲があるので、市も苦悩なさっていると思う。
○会長　ご苦労はあると思うが、専門性も含めた上で、今後もできるだけ積極的にこの事業をしてもらいたい。
○委員　病児保育事業について、年間利用児童数は平成30年度で1,716人に対し、令和２年度の見込みが3,000人強ということにまだ違和感がある。ニーズはあるけれども近くにないから利用できないという阻害要因を解決しないといけない問題なのか、ただ単にアンケートにとりあえず書いただけの問題なのか、そこを見極めた上で量の見込みを調整したほうがよい。
●事務局　令和元年度は実施箇所数が１か所増え５か所で実施しており、年間の延べ受入可能数は約7,300人となっている。今後、空白地域を埋めていくような形で整備をしていく必要があることと、受入可能数自体は需要を満たすだけの数はあるが、利便性に課題がある。
○会長　北部の利用希望割合は南部に比べて高く出ているため、整備の方法もあわせて今後検討して欲しい。
○委員　保育園や幼稚園から病児保育の周知はできているのか。また小学校でもインフルエンザで学校に行けないときなどに病児保育があることを学校から伝える機会はあるか。
○事務局　以前は、保育所の入所決定と一緒に病児保育の案内を送っていたが、昨年度か

ら、利用保留になった方も含めて病児保育の案内をしている。各学校から個別に周知は行っていないが、市政ニュース等を通じて広報している。
○委員　子育てコンシェルジュについて議論される際に地域の子育て中の親子にとっての居場所がどういうものであるべきか、また、そういった場所をどのような質にしていくべきかを話し合っていただければと思う。単に子育てひろばの輪を広げるのではなく、地域の子育てサークルや保育園の園庭開放の場などに、子育てコンシェルジュに来てもらうなど子育てコンシェルジュのあり方についてぜひ検討を進めて欲しい。
○会長　利用者支援事業に関する議論の結果は、次回の会議で報告いただけるのか。
●事務局　具体的な日程は調整できていないが、一定の整理ができた段階で報告したい。
○会長　次回は素案確定のタイミングにもなり、その後パブリックコメントもあるため、途中経過でも構わないので、10月の時点で報告してもらいたい。非常に大事な位置付けになるかと思うお願いしたい。

〔午後５時21分　閉会〕

【委員出席者名簿　14名】

所属団体・役職名等	氏　　名
西宮市ＰＴＡ協議会 副会長	岩本佳菜子
西宮市民生委員・児童委員会 理事	貴山 好江
公募委員	久保　　香
武庫川女子大学文学部 教授	倉石 哲也
西宮市青少年愛護協議会苦楽園地区青少年愛護協議会 会長	佐藤 美由紀
公募委員	多田 由希子
神戸ＹＭＣＡ	谷川　　尚
西宮市私立幼稚園連合会 理事長	田村三佳子
関西学院大学教育学部 教授	橋本 祐子
小規模保育園森のこどもたち 園長	林　　真咲
社会福祉法人ほっとスマイル 理事	東野 弘美
西宮市私立保育協会 会長	藤原 和子
甲南大学マネジメント創造学部 教授	前田 正子
転勤族ママ＆キッズ探検隊in西宮 代表	松村 真弓

【事務局出席者名簿　28名】

所属・役職	氏　　名
こども支援局長	時井 一成
子供支援総括室長	大神 順一
子供支援総括室参事(計画推進担当)	安福 聡子
子供支援総括室参事(耐震化担当)	池田 敏郎
子供支援総務課長	宮本 由加
保育施設整備課長	貴志 健太
保育幼稚園指導課長	田中 由恵
子育て手当課長	山崎　　豊
青少年施策推進課長	牧山 典康
育成センター課長	宮後 賢至
放課後施策推進課長	中尾 篤也
子供家庭支援課長	岡田 良一
子育て事業部長	伊藤　　隆
子育て事業部参事(保育指導担当)	田中 玲子
保育所事業課長	西村 聡史
保育幼稚園支援課長	松井亮一郎
こども未来部長	足立　　敏
発達支援課長	森山　　毅
診療事業課長	野村 和生
地域・学校支援課長	山本 雅之
子育て総合センター所長	海部　　康
政策局参与(就学前児童政策担当)	安井 洋一
健康福祉局 保健所 地域保健課長	塚本 聡子
【教育委員会】	
教育次長	大和 一哉
学校教育部長	佐々木 理
学事・学校改革部長	津田 哲司
学校改革調整課長	河内　　真
学事課長	竹村 一貴